

「プログラミング」シラバス

校長印	教頭印	教頭印

教科	科目名	対象学科	学年	単位数	必修・選択
商業	プログラミング	情報処理科	2年	2単位	必修
教科書	商業 324「最新プログラミング」 (実教出版)	補助教材	学習と検定「情報処理問題集」全商プログラミング部門1級 「情報処理検定模擬試験問題集」全商プログラミング部門1級		

1. 学習目標

- (1) コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて理解させる。
- (2) 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を育成する。
- (3) ビジネスの諸活動において、情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力と態度を育む。
- (4) 全国商業高等学校協会主催 情報処理検定試験プログラミング部門1級を取得する。

2. 目標とする検定

- (1) 全商情報処理検定試験プログラミング部門2級（9月実施）
- (2) 全商情報処理検定試験プログラミング部門1級（1月実施）

3. 授業の展開と形態

- (1) HR クラス単位での授業で、パソコンを使用した実習と座学を行う。
- (2) 担当教師は2人で、チームティーチング(TT)で行う。
- (3) 多様な授業展開を図り、習熟の程度に応じた個を生かす学習を行う。

4. 評価の観点と方法

評価の観点	内容	評価方法
関心・意欲・態度	○コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングについて関心をもち、ビジネスの諸活動によって生じた情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、プログラムを活用しデータを合理的に処理し、コンピュータを効果的に活用する実践的な態度を身に付けている。	学習活動への意欲や態度 レポート ノート
思考・判断・表現	○ビジネスの諸活動によって生じた情報を主体的に活用することを目指して、プログラムを利用してデータを加工するための思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	定期考査 学習態度 実習課題
技能	○プログラミングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動によって生じた情報の活用を目的としてコンピュータの活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	定期考査 検定試験 豆テスト
知識・理解	○コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、プログラムの意義や役割について理解している。	豆テスト 定期考査

5. 学習計画

月	時間	単元名	指導目標	指導上の留意点
4	6	オリエンテーション 2級の復習 (1) データの集計・平均 (2) 最大値・最小値 (3) 線形探索	1年次において学習した内容の復習及び定着を図る。	PC 教室の利用マナーの説明を行う。
5	13	第2章 プログラミング基礎 5節 オブジェクト指向の考え方 (1) クラスの考え方	オブジェクト指向に関する基礎的・基本的な知識を身につける。	<u>中間考査</u>
6		(2) クラスの定義とオブジェクトの生成		

7	15	(3) オブジェクト指向の3大要素 第3章 プログラミング応用 2節 配列の利用	配列を利用した各種のプログラミング技法を身につけるとともに、配列の有用性について考察を深める。	期末考査
9		(4) 配列による順位付け (5) 配列による並べかえ (6) 二次元配列の考え方		
10		3節 例外処理とストリーム (1) 例外処理 (2) ファイルの入出力	プログラムの実行中にエラーが発生した際に、適切な処理を行うための技法を身につける。	情報処理検定試験 2級 (未取得者)
	16	第4章 Java の活用 1節 ユーザインタフェース	Java 言語における GUI について、実習を行いながらその特徴を理解する。	中間考査
		(1) フレームの作成 (2) コンポーネントとコンテナ (3) イベント処理 (4) さまざまなコンポーネントの利用		期末考査
11		2節 文字や画像などの処理 (1) 文字列処理 (2) 画像の処理 (3) 図形の処理と描画 (4) 音声の処理	文字列を処理するための技法、静止画、動画、音声などを処理するための技法を身につける。	
12	10	第5章 ハードウェア・ソフトウェア 1節 ハードウェア	コンピュータの利用にあたって必要な、ハードウェアとソフトウェアに関する知識を身につける。	情報処理検定試験 1級(全員)
		(1) コンピュータの構成と特徴 (2) データ構造 (3) 数値・文字の表現 (4) 論理演算 (5) 入出力装置 (6) 補助記憶装置 (7) プロセッサ	高度情報化社会を生き抜くために必要な情報活用能力の重要性を理解するとともに、情報社会に参画する上での望ましい態度について考察を深める。	学年末考査
1		2節 ソフトウェア (1) ソフトウェアの体系 (2) 基本ソフトウェア (3) 情報モラル		
2	10	グループ演習	実習課題を通して、知識及び技術の定着を図る。 グループ演習を通して、グループの協調性を身につける。	
3				
合計	70			